

Oracle + .NET

3つの誓い



一志 達也 ICHISHI, Tatsuya

最終回

Webサービスサーバーを作ろう (その2)

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Level



Samples

“3つの誓い” 最終章

前回と前々回では、Visual Studio .NETを使ってWebサービスアプリケーションを作成すると、いかに手軽で簡単なのかを紹介しました。サーバー側/クライアント側ともに、HTTPやXMLをまるで意識する必要がないこと。通常のVB.NETと何ら変わらないプログラミングで、それが扱えることに、驚いた方も少なくないと思います。

今回は、Webサービスに関する話題の締めくくりとして、より複雑なサーバー側のプログラム作成について紹介したいと思います。

現場で使える サーバープログラム

今回は、クライアントから呼び出されると「HelloWorld」という文字列を返す、非常に簡単なサー

バー側のアプリケーションを作成しました。これはこれでサンプルとしてはいいのですが、固定の文字列を返すだけの簡単なアプリケーションなんて、実際のシステムでは考えにくいものです。そこで、クライアント側で入力される文字列などを、サーバー側の引数として受け取り、それに応じた結果を返す方法を紹介합니다。

Webサービスのサーバー側のアプリケーションで、クライアントからの引数を受け取るには、プログラム(メソッド)の最初に宣言する必要があります。といっても、これは通常の引数の宣言と何ら変わりありません。VB.NETのプログラミングを理解している方は、なんだそれだけのことか、と思われるに違いありません。

以下のコードは、前回作成したメソッド「HelloWorld」です。

```
<WebMethod()> _
Public Function HelloWorld() As String
    Return "Hello World"
End Function
```

まずは、これを改良して、リスト1のようにしてみます。見てのとおり、メソッドの名前「HelloWorld」に続くカッコの中に、「Client_Input」という文字列型の引数を宣言しただけです。ここでは詳しいことは述べませんが、引数を宣言するといっても、特に難しいことはありません。

あとは、受け取った引数を活用するように、結果を戻す「Return」命令の内容を少し書き換えます。

ここまでできたら、実際に動かしてみて、ちゃんと答えが変化するのを確かめましょう。Visual Studio .NET で [F5] キーを押すなり、ファイルを保存後にブラウザでアクセスするなりしてみると、ブラウザを使って作成

リスト1：サンプル「HelloWorld」改良版

```
<WebMethod()> _
Public Function HelloWorld( _
    ByVal Client_Input As String) As String
    Return "Hello World. Your input is " + Client_Input
End Function
```

したWebサービスの実行テストができるのは前回紹介したとおりです。実行テストをしてみると、図1のように引数に渡す値を入力するためのテキストボックスが表示され、結果としてどのようなXMLが返されるのかを確認できます (図2)。

ただし、リモートコンピュータからのアクセスでは、テキストボックスが表示されません。引数を与えた結果を確認するには、開発環境そのもので実行するか、サーバー上で実行するしかないので。

図1：引数を定義するとテキストボックスが表示される

